

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福岡県苅田町】

実施報告書
(概要版)



11月5日は津波防災の日



しんじょう君



ちっちゃいおっさん



ふなっしー



くまモン



まいちゃん

 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

津波防災ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

福岡県京都郡苅田町について

苅田町は、北九州市と行橋市の間に位置する人口約3万6千人、面積46.6平方キロメートルの町です。東は周防灘に面して、国際貿易港・苅田港と広大な臨海工業地帯が広がっています。また苅田港沖には北九州空港があり、苅田港、東九州自動車道 I.C. と併せ、陸・海・空の交通結節拠点となっています。

一方、西はカルスト台地平尾台に連なり、国の天然記念物青龍窟や広谷湿原など豊かな自然があります。市街地には邪馬台国伝説にまつわる三角縁神獣鏡を出土した国指定の石塚山古墳や御所山古墳をはじめとした多くの古墳や遺跡も点在しています。

こうした自然・文化・歴史や産業が調和し、充実した交通インフラがもたらすネットワークを生かして、人・もの・情報・文化が交流するまちづくりを進めています。

出典：苅田町ホームページ



訓練概要

- 訓練想定：11月5日午前10時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生、苅田町では震度5強を記録。地震発生直後から津波警報が発表された。苅田町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置し、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。苅田町の沿岸地域では、最大約4mの津波が押し寄せ浸水等の被害が発生した。
- 実施日時：平成27年11月5日（木）10：00～12：20
 - シェイクアウト訓練、津波避難訓練
 - 情報伝達訓練 10：00～10：40
 - 救出救助訓練・物資配給訓練 11：00～11：30
（ヘリ訓練を含む。）
 - 炊き出し訓練 11：00～12：00
 - 津波防災啓発イベント 11：40～12：10
- 主催：内閣府、苅田町（共催：福岡県）
- 参加者数：約7,700名
- 参加機関：各地区自主防災組織、地元企業、行橋警察署、苅田町役場消防本部
陸上自衛隊第41普通科連隊、国土交通省九州地方整備局
苅田港務所、海上保安庁苅田海上保安署
馬場・南原・与原・片島小学校、苅田・新津中学校
苅田みどり幼稚園

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民、企業、学校の方々が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施の後、各々示された津波避難場所へ避難、避難後の点呼を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



11:00～ 救出救助訓練

倒壊した家屋からの人命救助、負傷者のヘリ搬送、消防エアートントへの負傷者の収容等、一連の救出救助について、自衛隊及び消防が連携した展示型訓練が行われた。

▼負傷者のヘリ搬送



▼負傷者の収容



11:00～ 物資配給訓練

陸上自衛隊ヘリにより救援物資が空輸され、その救援物資を訓練参加者が地上搬送して避難場所に配給する訓練が実施された。

▼ヘリ空輸



▼地上搬送



11:00～ 炊き出し訓練、11:40～ 津波防災啓発イベント

大熊公園において、陸上自衛隊炊事班がアルファ米を炊き出し、訓練参加者に試食として配食された。

また、並行して地元のゆるキャラやアイドルが登場する防災啓発イベントが実施され、多くの町民、生徒、幼稚園児が津波避難ポーズを体験する等、地震・津波防災に関する意識の高揚が図られた。

▼炊き出し訓練



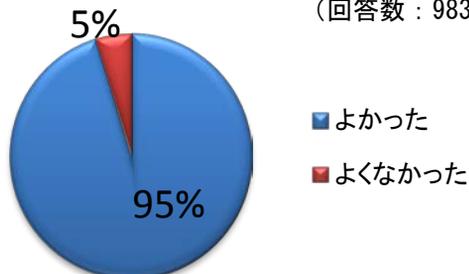
▼啓発イベント



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：1,027人）

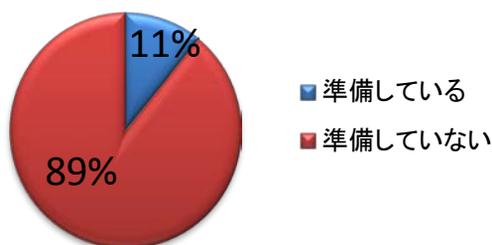
問 訓練に参加して、どう思いましたか？（回答数：983人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：1,016人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？（回答数：994人）



訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、幼稚園児を含め企業や地域住民等を合わせ約7,700名（防災関係機関を除く。）が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府・苅田町長の訓練講評の後、住民に対しては訓練場所において、小学生・中学生は学校に戻ってアンケートに記入し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「定期的に1か月に1回くらい実施してほしい」、「自衛隊・消防の参加もあり、いっそう防災意識が高まった。」、「規律正しく手際よい速い動作は、日頃の厳しい訓練から生まれたものと感動し、力強さを感じました。」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 体験することが大事（展示訓練の見学やシミュレーションだけではいざというときに行動が遅れる。）
- 最悪の条件を想定した人員点呼の方法、老人・病人や寝たきりの人を坂の多い町としてどのように運ぶかといった検証・訓練が必要
- 無線放送は聞こえない。他にサイレンとか良く聞こえる他の方法を利用すべし